

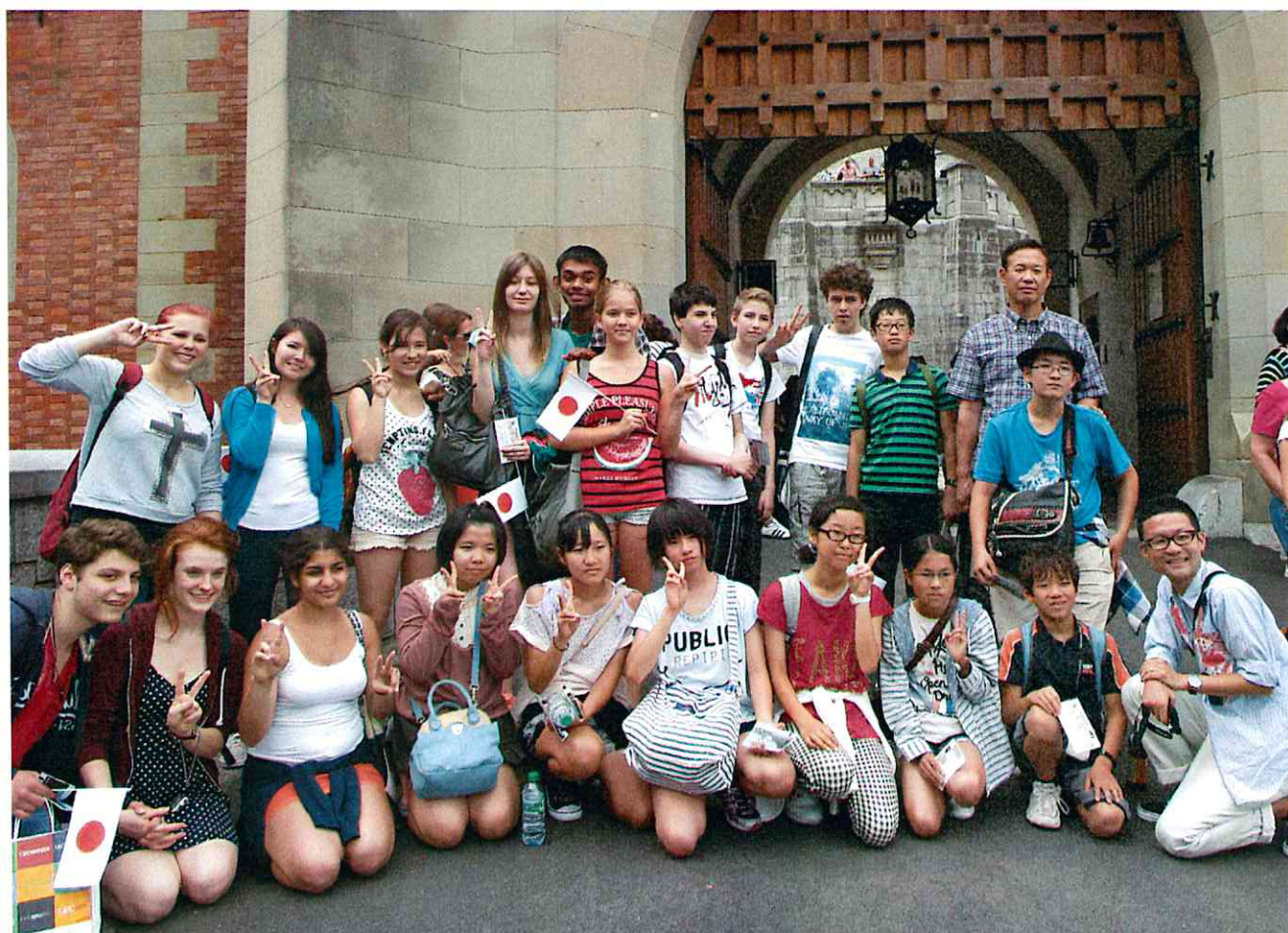
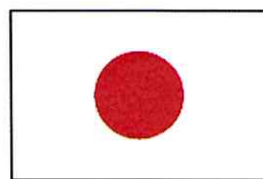
平成26年度

第10回大垣市中学生

ドイツ・シュツットガルト市研修派遣団



報告書



フレンドリーシティ交流事業

第10回 大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣 日程表

派遣期間:平成26年7月22日(火)～7月29日(火)の8日間

派遣人数:10人(引率者2人 中学生8人)

	月 日	現地時間	日 程	宿泊先・食事等
1	7月22日(火)	5:30 7:00 9:35 15:00 16:50 17:30 19:00	スイピアセンター(大垣市)集合・出発 中部国際空港着 中部国際空港発(LH737) フランクフルト空港着 フランクフルト空港発(LH132) シュツットガルト空港着 ケーニギンシャルロッテ高校へ移動 ホストファミリーとの対面式 その後、ホストファミリー宅へ	大垣市バス 移動はシュツットガルト側が手配 (タクシー) ホームステイ
2	7月23日(水)	8:00 11:00 12:45 14:40 16:30	ホストフレンドの学校見学 表敬訪問 市内見学 ダイムラーベンツ博物館 ホストファミリー宅へ	ドイツ学生同行 電車を使って集合 徒歩で移動 ホームステイ
3	7月24日(木)	8:15 8:30 19:00	ケーニギンシャルロッテ高校集合 ノイシュヴァンシュタイン城見学へ ホストファミリー宅へ	ドイツ学生同行 バスで移動 ホームステイ
4	7月25日(金)	10:00 12:00 12:30 13:00 15:30 18:30 20:00	リッターチョコレート工場見学、チョコ作り ヴィルヘルマ動物園へ 食事(ヴィルヘルマ動物園にて) ヴィルヘルマ動物園見学 ホストファミリー宅へ 懇親会 ホストファミリー宅へ	ドイツ学生同行 地下鉄で移動 アトラクション(15分) ホームステイ
5	7月26日(土)	終日	ホストファミリーと過ごす	 ホームステイ
6	7月27日(日)	8:30 10:50 11:40 午後 13:00	シュツットガルト空港集合 シュツットガルト空港発(LH133) フランクフルト空港着 フランクフルト見学 昼食 ゲーテハウス、オペラ座、中央駅、大聖堂 ホテル着。夕食	移動はシュツットガルト側が手配 バス ホテル泊(フランクフルト市内)
7	7月28日(月)	10:30 11:00 13:30	ホテル内で朝食。周辺散策 ホテル発 フランクフルト空港着 昼食(ランチボックス) フランクフルト空港発(LH736)	ホテルで昼食受取 バス 機内泊
8	7月29日(火)	7:55 11:00	中部国際空港着 中部国際空港発 スイピアセンター(大垣市)到着・解散	 バス

フレンドリーシティ交流事業

第10回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣事業
団員名簿(学年、五十音順)

派遣期間:平成26年7月22日(火)~7月29日(火)

No.	役名	氏名	性別	学校名 役職名 もしくは 学年
1	団長	かとう えいじ 加藤 栄二	男	時小学校 校長
2	総務兼通訳	こばやし まこと 小林 誠	男	西部中学校 教諭
3	団員	おおすみ ももな 大角 桃菜	女	江並中学校 1年
4	団員	おくだ ゆい 奥田 結衣	女	興文中学校 1年
5	団員	まつい ゆうき 松井 勇樹	男	西中学校 1年
6	団員	みやけ ゆかい 三宅 唯介	男	上石津中学校 1年
7	団員	いとう りさ 伊藤 理沙	女	北中学校 2年
8	団員	たかやま さき 高山 紗希	女	星和中学校 2年
9	団員	くわばら こうた 桑原 宏太	男	赤坂中学校 3年
10	団員	やの あいか 矢野 愛香	女	南中学校 3年



団長

加藤 栄二



総務兼通訳

小林 誠



大角 桃菜



奥田 結衣



松井 勇樹



三宅 唯介



伊藤 理沙



高山 紗希



桑原 宏太



矢野 愛香

引率者感想文

素晴らしい人生の宝

時小学校 校長 加藤 栄二

子ども達が立てた目標「市の代表として礼儀を正し、ドイツの方々、仲間との絆を深められるようにしよう」と、出発式で私が述べた「友好」「個人研修課題」「安全」の三つのすべてを達成できたことを大変嬉しく思っています。

シュツットガルト市では、フンケフクス校長先生、私のホームステイ先であり、すべてをコーディネートして下さったベックダイム先生をはじめ、ケーニギンシャルロッテ高校の先生方には大変お世話になりました。そして、8～10年生の子どもがいるホストファミリーの方々にも、子どもたちを温かく迎えていただき、きめ細かな配慮をしていただきました。最初は緊張していた中学生もすぐに溶け込み、言葉は違っても心は十分に通じ合うことができました。

学校見学では、夏休み直前にも関わらず、生物と地理の授業に分かれて参加させていただきました。また、ベンツ博物館やリッターチョコレート工場、ヴィルヘルム動物園見学などの市内研修移動には地下鉄や電車、バスなどを利用してくださり、市民生活の雰囲気も味わうことができました。改札のない駅、様々な言語に対応した博物館の設備などには驚かされました。



ノイシュヴァンシュタイン城、ウルム・ミュンスターは、古い歴史の中に美しさと豪華さがあり、疾走するアウトバーンから見える景色は、広大な森やトウモロコシ畑、牛の放牧、レンガ色の屋根などであり、これぞヨーロッパという感じがしました。

初めてのホームステイでは、ベックダイム夫妻と朝食や夕食をしながら様々な話をしました。お二人とも高校の先生であり、日本に10年住んだ経験があるので、子育てから教育問題まで日本とドイツの違いを語り合いました。自分の考えをはっきりと主張すること、他人の考えも十分に尊重することをドイツの教育は大切にしているようです。

この8日間を通して、中学生たちは人生の宝、財産となる貴重な体験をしました。どの生徒も積極的に交流をすることで、今までと違う自分を発見したと思いますし、五感のすべてを使ってドイツの歴史や文化を若い感性で捉え、友好関係も深めてくれました。これからの学校生活や長い人生の中で、この経験を生かしてくれることを期待しています。

小林先生には、総務と通訳という役割だけでなく、中学生にタイムリーな指示や助言をしていただきました。素晴らしいパートナーに恵まれたことに感謝しています。

また、この研修の機会を与えて下さった国際交流協会や語学研修をしていただいた関係者の皆様、そして市や教育委員会の方々にも深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。



研修を終えて

西部中学校 教諭 小林 誠

大垣を出発し中部国際空港からフランクフルトを經由しシュツットガルトに到着しました。ケーニギンシャルロッテ高校に到着するまでの時間を計算すると約20時間の長旅でありました。生徒は事前にメールのやり取りを行い、期待や想像を膨らませていました。疲れを見せる暇もなくホストファミリーと感動的な出会いがありました。8人の生徒はホストフレンドとしっかりと握手をし、ホストファミリーと一緒にスーツケースを押す後ろ姿を見て「がんばれ！」と心の中で応援しました。

次の日の8人の生徒の表情は明るく、それぞれのホームステイ先で、自己紹介をしたり日本からのお土産を渡したりして上手に会話ができたとほっとしました。8人の生徒達が、その後もホストファミリーについて話してくれました。また、家の造り（外観や風呂場）や食事など、日本とは違う文化を受け入れながら上手に生活を送っていることが生徒との会話を通して感じることができ嬉しかったです。

2日目の学校見学の中で、ホストフレンドたちと自己紹介や簡単なゲームをしました。名前を覚えることから始まり、生徒たちの間に少しずつ会話や笑顔が増えていきました。表敬訪問や市内観光では、シュツットガルト市の歴史を知ることができました。また、ベンツ博物館に行き、ドイツ産業の1つである自動車の歴史も知ることができました。

町で走っている車を見ると、9割がベンツ・BMW・フォルクスワーゲンでした。



ノイシュヴァンシュタイン場の見学、リッターチョコレート工場でのチョコレートづくり、ヴィルヘルマ動物園の見学など、ドイツの文化に触れることができました。しかし、その活動途中で心配していたことが現実になりました。それは、日本人で固まって日本語で楽しそうにしゃべっていることが増えたことです。生徒とホストフレンドとの距離を感じました。私はチョコレート工場の帰り、バス停でバスを待っているとき生徒を集めました。そして、自分の思いを

話しました。「何のために来たのか?」「今の自分たちの行動はどうなのか?」すると、生徒の動きが変わりました。ホストフレンドのところへ近寄り話しかけたり、みんなで写真を撮ったりと、生徒たちは大事なことに気付いてくれました。そんな姿にほっとしたとともに、あと少しの滞在時間を大切にしてほしいと願いました。

4日目の夜に懇親会がありました。学校関係者の方やホストファミリーの方々が準備をしてくださり、温かく迎えてくださいました。私たちは、ホストファミリーへの感謝の気持ちを込めて、派遣団全員で知恵を出し合った出し物を行いました。太鼓の演奏から始まり、剣道、書道、剣玉、「ふるさと」の合唱、ダンスと、堂々と日本の文化を発表しました。ホストファミリーの方や先生方もその出し物を見て大変喜んでくださいました。私は生徒の発表を見たとき、日本でパートに分かれて強弱に気をつけ合唱練習を何度も行ったことや、セントレアで女子が集まってダンスの練習をしていたことが思い出されました。生徒たちはそれぞれの個性をしっかりと出しながら、まとまり合い、絆を深めることができました。学校や学年も違う生徒たちが創り上げた発表に私も感動しました。



“Guten Tag.” 私がドイツ語で話しかけると、相手に笑顔が生まれます。言語を学ぶ醍醐味に触れる瞬間です。英語が話せればいいという安易な考えを捨て、現地の言葉を使う大切さに気付き、メモ帳に使えるフレーズを書きためました。「英語をなんとしても習得したい」と思い十数年前にも同じことをしていたことを思い出しました。また、言語を学ぶことは、その国の文化を学ぶことであり、それは、自国について学ぶことにつながることを再認識させられました。「How is Fukushima now?」と聞かれて、上手く答えることができませんでした。日本の文化、歴史、経済などさまざまなことに目を向けるとともに、自分の意見を持ち伝えることができる日本人になりたいと感じました。

最後に、総務兼通訳という役をいただき、この派遣事業に参加させていただけたことに感謝いたします。また、第2言語を習得する楽しさを日本の多くの生徒に伝えたいと改めて決意を固めることができた研修となりました。

